

をみた。五島列島では水ノ浦湾でカタクチイワシ450匹も拾われ、甑列島でも、薩南でも斃死サバを散見した。沖で白く腹をかえしたサバ群が一条すじをひいて浮流をみた船もある。

黄海、東シナ海方面：冬季々節風連吹で底曳トロール船も旋網船も休漁同然で仕事にならず、シケをついて操業した船も思うような成果はなかつた。底魚漁獲は例年より2～5割減少。旋網のアジ、サバも凶漁。黄海底冷水発達し、沖アミ発生分布例年より多く、今後ソコトラ方面を中心にクジラ漁場など楽しみである。

黒潮流域鯨漁場：鯨漁期おくれ、南方種北上もおくれて少ないだろうが、熊野灘沖や、小笠原方面、琉球台湾方面など冷水南下、南方まで海が肥沃化されて今後の好果期待。

西日本ハマチ養殖：流藻、モジャコ今春さつぱりとれず、おくれ、生産低下。

海産稚鮎：大へん少なくなり、種苗難。

シラスウナギ：北上接岸おくれ、生産少く、種苗難。

4. 鯨と海況変動についての近況

渡瀬節雄（大洋漁業仙台支社）

三陸沖合のミンク鯨漁は例年より2週間遅れの3月8日に初漁があつたが以後も不振である。またミンクの餌になるメロウド・イサダも海況異変で不漁を続け、主水揚港である女川、渡波等例年の $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{10}$ の漁で加工業者は悲鳴をあげている状況である。また4月11日よりマッコウ鯨漁が解禁になつた沿岸捕鯨も南氷洋捕鯨の終漁が遅かつた関係もあり5月初めのヒゲ鯨解禁日

にも捕鯨船が揃わず、出足は不良である。しかし大型鯨は非常に広温性であるので、水温の低冷化にはさして影響はないものと思われるが、しかし冷水を好み、寒海性であるナガス鯨は寧ろ平年より来遊が多いものと思われ、ヒゲ鯨解禁前の4月のマッコウ鯨漁期中においても既にその兆候がみられている。またマッコウ鯨も同様に、特にこの鯨は雌雄の別或はその群種によつて水温により棲み分けがみられることは日本近海だけでなく、ペルー、チリー沿岸においても、ブラジル近海等においても例があるところで、且つ親潮が例年より強く、その上親潮面積が広い現在、雄の単独鯨と、雄のみのハレムが例年より多く三陸沖にみられる。そして育児を主体に索餌回遊する雌主体のハレムは従つて前者と棲み分けを或る程度行つているので、同一漁場でも多少水温によつて発見される場所が異つているし、来遊もやや遅れているようである。一方温暖種であり、暖海性である南方系鯨の来遊は黒潮弱勢の影響もあり、今年は漁期が遅れることは勿論、回遊も少いのではないかと予想されている。

現在の処、三陸近海の低温現象は依然続いており、世界的海洋変動の一つとして、太陽黒点の極小期近接の周期とも一致しているので、鯨においては暖海性のものの不漁が当然予想され、またこのことは過去の例をみても明かなところである。

なお昨年秋から今年春にかけての才18次南氷洋捕鯨において $48\sim 55^{\circ}\text{S}$ 、 $25\sim 70^{\circ}\text{E}$ 付近を中心に広範囲に軽石の浮游があり、鯨が餌と間違えて、それを食し、胃や腸から軽石が発見された例が多いようである。これは明かに印度洋の南の南極海で相当大規模な海底爆発があつたものと考えられ、太陽黒点極小期の起る現象の一つとして関係あるものと思われる他、今期の南氷洋捕鯨が異例の不漁であつたことも、只単に鯨資源減少という問題以外に、海況異変ということがある点も見逃すわけにはいかない。事実は例年にないバックアイスの北への張り出しと例年より若干水温の低いこと等も報告されているからであ

る。

またチリー・ペルー近海の流れ異変である El Niño が今年初頭より起りつつあるようで、餌である魚を失った多数の鳥群が移動しはじめたとか、或は餓死寸前にあるとか、一部で伝えられており、目下この方面の様相を現地にて問い合わせ中であるが、もし El Niño が起れば、この方面の鯨や、さしも繁栄を誇っているアンチョビー漁にも変動が起るものと思われるので、今後の動きは十分注視せねばならぬところである。

〔追記〕

その後、カナダ B.C 州の情報が入手したので報告する。

カナダ・ブリティッシュコロンビア州近海は平年より 2℃ 水温高く（4 月中～下旬）極めて良好なる海況を示している。この状態は 1952, 1958 年の鯨大漁時と同じで、B.C 州の南端からバンクーバー島近海には広くオキアミが見え、水温分布も昨年と異なり良好の状態である。かつ年頭初より素晴らしいニシンの大漁が続いており、捕鯨はじめ各種漁業の豊漁も予想されて、沿岸漁業は活気に満ちている。

5. 鯨の無線標識装置

岩 下 光 男 （東海大学海洋学部）

(1) 鯨の無線標識装置

鯨漁場における捕鯨船の探鯨は専ら経験的に漁況及び海況等の漁場形成要因の把握による間接的方法によつてゐる。僅に近年超音波探鯨機が現れたが、荒天時、しかも極めて至近距離の探鯨に役立つ程度で、広範な海域